

◆ 平成 19 年度（後期） 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

| 実施主体             | コーディネーター                 | 日・時   | 実施場所                | 実施目的・実施内容   |
|------------------|--------------------------|---|---------------------|---|
| 保健福祉学部<br>看護学科   | 看護学科 FD<br>委員：<br>山口 三重子 | 1 月 28 日<br>13：00～14：30   | 4102 教室             | <p>テーマ： 本学 FD 助成金による研究成果と平成 19 年度看護教育ワークショップの報告<br/>看護教員 30 名参加の上、それぞれの資料に基づいて、報告された。</p> <p>1. 診療録・看護記録についての自己学習を支援するホームページの作成（15 分）<br/>発表者：池田ひろみ</p> <p>基礎看護実習Ⅱの直前であったため、学生には既に紹介され、活用されているとのことであった。参加者からは、学生の使用後の評価についての質問があったが、それについては、質問紙を作成し、不備な点、活用された点等、について今後さらに検討を行い、内容を充実していくとの回答があった。</p> <p>2. 文部科学省主催平成 19 年度看護学教育ワークショップ 参加報告（60 分）<br/>「看護実践能力の育成を目指した学士課程カリキュラムの構築」<br/>－指定規則改正への対応を契機として－ 発表者：石田宜子</p> <p>指定規則の改正の期日も迫っていることから、対応に向けて具体的内容の説明があった。文部科学省におけるカリキュラムの考え方に関して、具体的な質問が多くされたが、豊富な資料が作成されており、分かりやすい説明がされ、今後のカリキュラム改正に向けて参考となった。</p> |
| 保健福祉学部<br>理学療法学科 | 学科長：<br>清水 ミシェル・アイズマン    | ①1 月 16 日<br>9 時～10 時 30 分<br>②毎月第 2 水曜日<br>9 時～10 時 30 分<br>③毎週水曜日 | 2416 会議室            | <p>テーマ： ①臨床実習教育を再考する<br/>－学生・実習指導者・教員における問題の把握と対応を考える－</p> <p>臨床実習における諸問題について討論を行った。その資料として平成 19 年度における「基礎臨床実習」、「総合臨床実習」において教員側、スーパーバイザー側、学生側に分けて現状と問題点を列挙した。担当症例の減少やレポート課題の増加などの問題について十分な討論を行った。</p> <p>テーマ： ②学科勉強会開催<br/>学科教員による勉強会の開催。開催 1 週間前にテーマ、担当者について学部内全教員にメールを送り、学部以外の教員の参加も募っている。その内容は教育から最新の研究テーマ、抄読会と多岐にわたる。</p> <p>テーマ： ③学科会議内学生支援に関する検討会<br/>問題のある学生に対する支援策を学科全体で検討した。<br/>(①②③ともに学科全教員参加、②については学科以外の教員が参加することがある)</p>   |
| 保健福祉学部<br>作業療法学科 | 近藤 敏<br>田端 幸枝            | 3 月 26 日<br>12：30～13：30   | 三原キャンパス<br>2416 会議室 | <p>本年度は学科の FD 活動の導入期であるため、教員の FD 活動に対する理解をより深めるために学科長が次の講演をした。講演終了後に活発な質疑応答及び意見交換が行われた。学生についての情報交換や指導の検討、伝達講習等は毎回の学科会議の中で実施された。</p> <p>講演のテーマ： 「作業療法士教育における FD の現状」<br/>講師：近藤 敏（保健福祉学部 教授、 作業療法学科長）<br/>内容： 1. ファカルティ・デベロップメント（FD）とは</p>  |

|                         |       |                      |                                      |  |
|-------------------------|-------|----------------------|--------------------------------------|--|
|                         |       |                      |                                      | <p>教員の教育能力のみでなく、研究能力開発や教育研究のための組織及びマネジメントが含まれるが、一般には、教員の教授能力の開発に焦点をあてることが多い。この背景として、少子化に伴う全入時代の到来がある。作業療法の場合、大学の増設、養成校の急増により現在、169校 192課程、入学定員 7,276人。選ばれる大学、大学の生き残りのため顧客ニーズの視点で重視されている。</p> <p>内容： 2. 作業療法の領域における FD への関心と現状<br/> 職能団体である（社）日本作業療法士協会でも各種の教育用手続きの中で取り上げられて居る他、講習会も開催されている。2007年度の関連した学会発表演題は 39/680であった。</p> <p>内容： 3. 関連領域における FD への関心と現状<br/> 「作業療法教育研究」「リハビリテーション教育研究」「現代の高等教育 IDE」においても近年、特集が生まれ記事が掲載され、FD への関心が示されている。</p>   |
| 保健福祉学部<br>コミュニケーション障害学科 | 吉畑 博代 | ①, ③ 9月30日<br>② 3月5日 | ①, ③4511 (大学<br>院セミナー室)<br>②4103 講義室 | <p>テーマ： ①日本言語聴覚士養成校教員連絡協議会研修会における情報収集<br/> ③心の問題をもつ学生への対応に関する講習会 他<br/> 東京国際フォーラムで行われた日本言語聴覚士養成校教員連絡協議会研修会(テーマ：ここに問題がある学生への対応について)に ST 教員 4名が参加し、その後 1名の教員が、学科内にて研修会報告を実施した。他の ST 養成校の現状を含め、問題や課題を伝え、カウンセラーとの連携を図る工夫などを話し合った。(学科内教員約 15名が参加)</p> <p>テーマ： ②カウンセラーによるストレスマネジメント講習会<br/> 明治大学高瀬由嗣先生を講師として招き、「大学教員のためのメンタルヘルス維持戦略～カウンセリングの活用」と題した講演会を実施した。教員間の話し合いが重要であり、カウンセリング技術を活かしながら、互いに支えあっていくことが大切であるとの講演内容であった。(学科内教員に加え、他学科の教員の参加もあり、計約 25名が参加)</p> <p>その他、学生への授業評価、現代 GP 委員による GP 活動、チューターによる学生への面接、学内実習指導・学外実習先訪問などを実施した。</p> |
| 保健福祉学部<br>人間福祉学科        | 三原 博光 | ①1月25日<br>②3月8日      | 三原キャンパス                              | <p>テーマ： 現代 GP 教育プロジェクトへの積極的参加<br/> 人間福祉学科独自の FD 活動の取り組みとして、講師を招聘し、教員が FD 活動について学ぶことを計画していたが、教員の時間的都合から実施が困難であった。そこで、現在、保健福祉学部の現代 GP 活動に積極的に参加することで、学生及び教員の FD 能力を高めることを目標とした。</p> <p>①陽信孝氏の講演：「アルツハイマーになった妻の介護を通して」<br/> ②三原市こころネット祭り：精神障害者とその家族、施設スタッフによる模擬店、講演会にボランティアとして人間福祉学科の教員、学生が参加した。</p>  |